

袋井の

【ひと】

革素材を活かして 暮らしに役立つ「あったらいいな」を実現

TLF革のデザイン展2011「制作部門・佳作受賞」

松本美佐子さん(小川町)

皮革の用途を、もっと多くの人に知ってほしいという願いを込めて、昨年12月に開催された「TLF(東京レザーフェア)革のデザイン展2011」。

こんな革製品があったらいいな、というテーマで行われたデザインコンテストには、全国から計675作品の応募があり、松本さんの作品「南国の鳥(タペストリー)」が制作部門で佳作を受賞しました。

「好き・楽しい」の発見が 継続のエネルギー

松本さんが革工芸を始めたのは、市内で教室を開催している友人宅の

玄関で、作品を見たことがきっかけだったそうです。

「以前から油絵や水彩画に取り組んでいたため、革工芸でも、作品を作り上げていく過程で楽しみを見つけることができました。デザインや構図を考えたり、染色をしたりする作業が一番好きですね」

今回、佳作を受賞した作品は、縦約2m、横約1mのタペストリーで、制作開始から完成までにかかった期間は約1年。こつこつと作り上げたものです。

「約1万6,000個あるパーツのはり付けは、細かな作業の連続で、根気を持続させることが一番大変でした。完成した時の充実感はとても大きかったです。」

何か1つ、自分が深く好きになれたり、楽しいなと思えたりすることを見つけて、継続の秘訣ですね



受賞作品「南国の鳥」

「知る・体験する」の相乗効果で 文化・芸術をもっと身近に

「革工芸に限らず、取り組む人が増えれば、家族や友人などを通して作品に接する機会も増えます。すると、作品に接した人が興味を持って、革工芸を体験してみようと思う。」

そんな相乗効果で、様々な分野の文化・芸術がもっと身近になって、広まってくれたらいいですね

実際に取り組み始めると、仲間との切磋琢磨が技術の向上につながり、その技術が、人の手から手へ受け継がれていく。そんなところも素晴らしいと語ってくれた松本さん。

今後、自分のペースで革工芸や絵画に取り組んでいきたいと話してくれました。

袋井で活動中

グループ紹介

親子リトミック

親子で過ごすかけがえのない時間…
歌って踊って楽しくふれあおう!

親子リトミックは、0歳～3歳の親子を対象に、3年ほど前から活動をはじめ、現在は、75組が登録。子どもたちが、音楽を通して、色や形、数、自然など、身の回りのことを理解し、体を使って自由に表現できるようになること、親が、子どもと同じ目線で接することで、子どもへの理解を深めることを目的に活動しています。

子どもだけでなく、乳児から高齢者まで、年齢に応じたリトミックがあります。講師派遣など、興味のある方は、ご連絡ください。



きれいな紙吹雪におおはしゃぎ



リズムに合わせて親子でふれあい

活動日 ▼第1・第3水曜日…3歳児対象 ▼第2・第4水曜日…1～2歳児対象 活動所 袋井南公民館 会費 500円/月
(☎重本里美さん(鷺巣上) ☎44-8464

子育てパパママ市長

子育て楽しんでる？



● 秘書広報課広報広聴係 ☎44-3104

原田市長が市民の皆さんと身近な話題で対談する新コーナーがスタート。今回は「子育て」をテーマに対談しました。

いじめや悩みごとの解決 アドバイスや接し方で、子どもは変わる

市長：今回は、PTA会長などを務めている皆さんに、保護者を代表して「子育て」について伺います。

皆さんは、いじめや悩みごとの解決に、どのように子どもに接していますか。

石田：「学校に行きたくない」と訴えたことがありました。その時、私は「自分が一番強くならなきゃいかん」と伝えました。

姉妹で相談したのかもかもしれませんが、それから半年くらいしたとき、何を言われてもめげない姿に、強くなったなと感じました。

原：子どもの「ただいま」の一言でその日の気持ち・気分が伝わってきます。

「何かあったの？」と直接的に聞かず、たわいない話からしていくと、「実はね…」と話し始めてくれました。一緒に悩み話し合ったことが、大きな問題につながらなかつたのかなとも思います。

伊藤：保育所に行くのを楽しみにしていたのに、3日続けて「行きたくない」と…。何かあったのと尋ねると、友達か

ら、体格のことをからかわれていた様子。先生に相談すると、すぐにクラスで話しをしてくれ、解決することができました。

小さなころからの「しつけ」が大切

市長：皆さんは「しつけ」で、特に気を付けていることはありますか。

石田：とにかく「あいさつをしっかりとすること」ですね。

自分の子どもだけでなく、家の前を通る子には「おはよう」「お帰り」と、必ず声掛け。返事が返ってくるまで、声を掛けます。だから子どもたちの間では、「うるさいおじさん」で通っています。

伊藤：「あいさつ」「ご飯の食べ方です。ご飯の時には、ひじをつかない、左手を添えるなど意識させています。

保育所では、おきこむと怒りますが、家だと甘えもあるのか、よく注意します。原：私も「あいさつ」と食事のしかたです。



写真左から原田市長、原由希さん、伊藤亜也子さん、石田一晃さん

- ▽原由希さん(文中：原)…山梨幼稚園PTA会長。2男1女の母。
- ▽伊藤亜也子さん(文中：伊藤)…笠原保育所保護者会会長。1男の母。
- ▽石田一晃さん(文中：石田)…袋井東小学校PTA会長。2女の父。

家族そろって「いただきます」が基本です。特に、手を合わせる行為が、全員そろわないと「いただきます」はしません。

自分でやる習慣を身に付けさせたい

市長：私は、アイロンがけや、洗濯など、自分でできることはしています。

皆さんはどうですか。また、子どもにもそのようにさせていますか。

石田：アイロンがけはできませんが、自分でできることはしています。子どもにも私の様子を見て、自分でできるうちにできるようになってもらいたいですね。

原：自分でさせるようにしていますが、子どもなので「甘えたい」とき「してあると思うんです。一番上の子どもは、がまんしていることも多いと思います。甘えたいと思うにしている時は、やっ

てあげてあげてね」とお願いすることがあります。

市長・石田：男性には、子どもが「甘えたいとき」や「甘えさせてほしいとき」が、なかなか分からないですね。

原：法則はありませんが…例えば、本当は1人で行けるのに「トイレ一緒に行って」と私に言ってきますが、「お父さんがさっき行きたいって言ったよ」となるべく父親が子どもと接する機会を増やしています。一緒に過ごす時間が多いことで、自然と子どもの気持ち分かるようになっていっているのではないのでしょうか。

兄弟姉妹での助け合いや教育機関との連携も大切に

市長：兄弟・姉妹がいると、子ども同士で助け合ったり、教え合ったりできるけれど、1人の子だと、そうもいかないですね。何か困っていることはありませんか。

伊藤：1人の子なので「自分のものは自分のもの」「人のものも自分のもの」という感覚でいる時があり、心配です。

なるべく、保育所や近所の子どもたちと遊ばせて、「全部が自分のものじゃない」ということを分かっていきたいと思います。

原：子どもって親が何度言っても聞かないのに、先生の「これやると良いよ」という一言であつさりうきまわります。このことありませんか。先生の言葉って魔法のような効果があつて、大切ですね。

市長：市の行政に任せても私に任せても参考になるいろいろなお話をさせていただき、ありがとうございます。